



三井化学 グループ

**化学の力で社会課題を解決し、多様な価値の創造
を通して持続的に成長し続ける企業グループ**

証券コード
4183

2026年2月27日
三井化学株式会社
常務執行役員 CFO 吉田 修



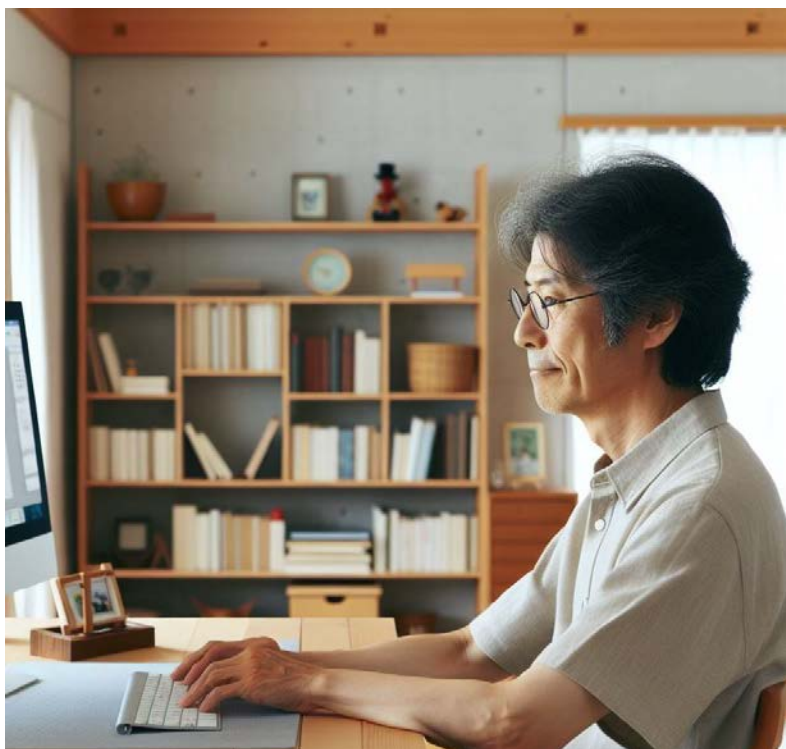
今メガネをかけて画面を見ている方



ご愛用のお車を運転する方



この前のご旅行でたくさんスマホで
写真を撮った方



今メガネをかけて画面を見ている方



ご愛用のお車を運転する方



この前のご旅行でたくさんスマホで
写真を撮った方

三井化学製品をご愛用いただいている**可能性が非常に高い**

➡ なぜそう言える？

世界シェア **No.1**

メガネレンズ材料



薄くて丈夫なレンズ、クリアな視界

世界シェア **No.2**

自動車材料



より軽く、低燃費な自動車

世界シェア **No.1**

スマホカメラレンズ材料



小さなレンズでクリアに映す

多様な市場のニーズに応える高機能製品

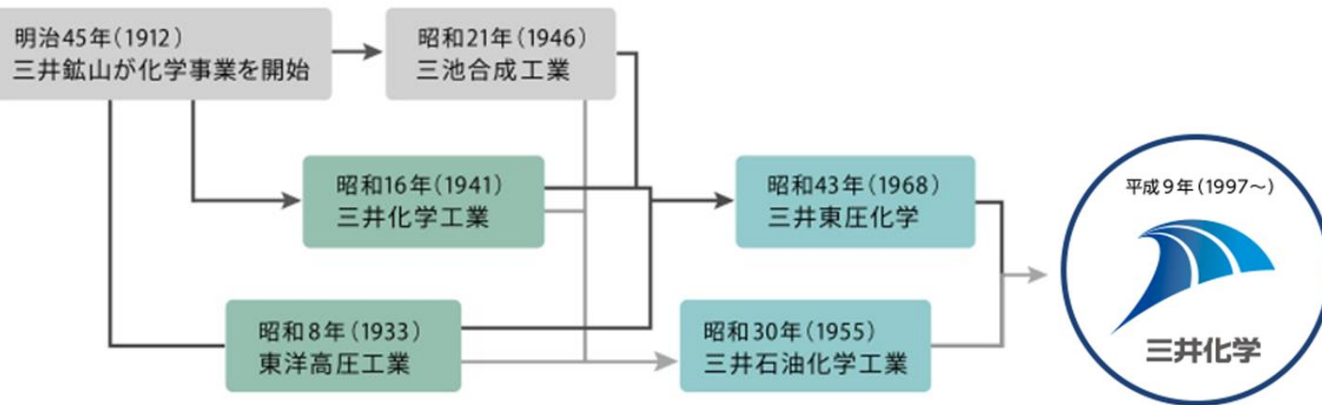
本日本話しさせて頂く内容

1. 三井化学とは
2. 株主還元
3. 三井化学の事業



1. 三井化学とは

- ▶ 明治45年（1912）三井鉱山の石炭化学事業を発端に様々な化学事業に取り組む
- ▶ 【強い技術力を武器に100年以上にわたり社会課題解決に挑戦してきた歴史】が現在の三井化学を形づくる



グラフ：売上高推移

- 1915 **日本初**
- 1932 **日本初**

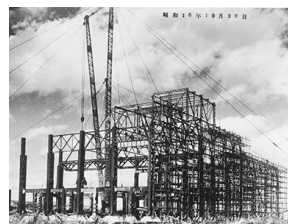
合成染料
「アリザリン」
工業化

合成染料
「インジゴ」
生産開始



- 1948 **世界初**

尿素
大量生産
工場操業



- 1958 **日本初**

エチレン
プラント操業



- 1998 **世界初**
高機能包装材料
エボリュ®
生産開始



- 2021 **日本初**
バイオスナフサを
原料にプラスチック・
化学品製造開始



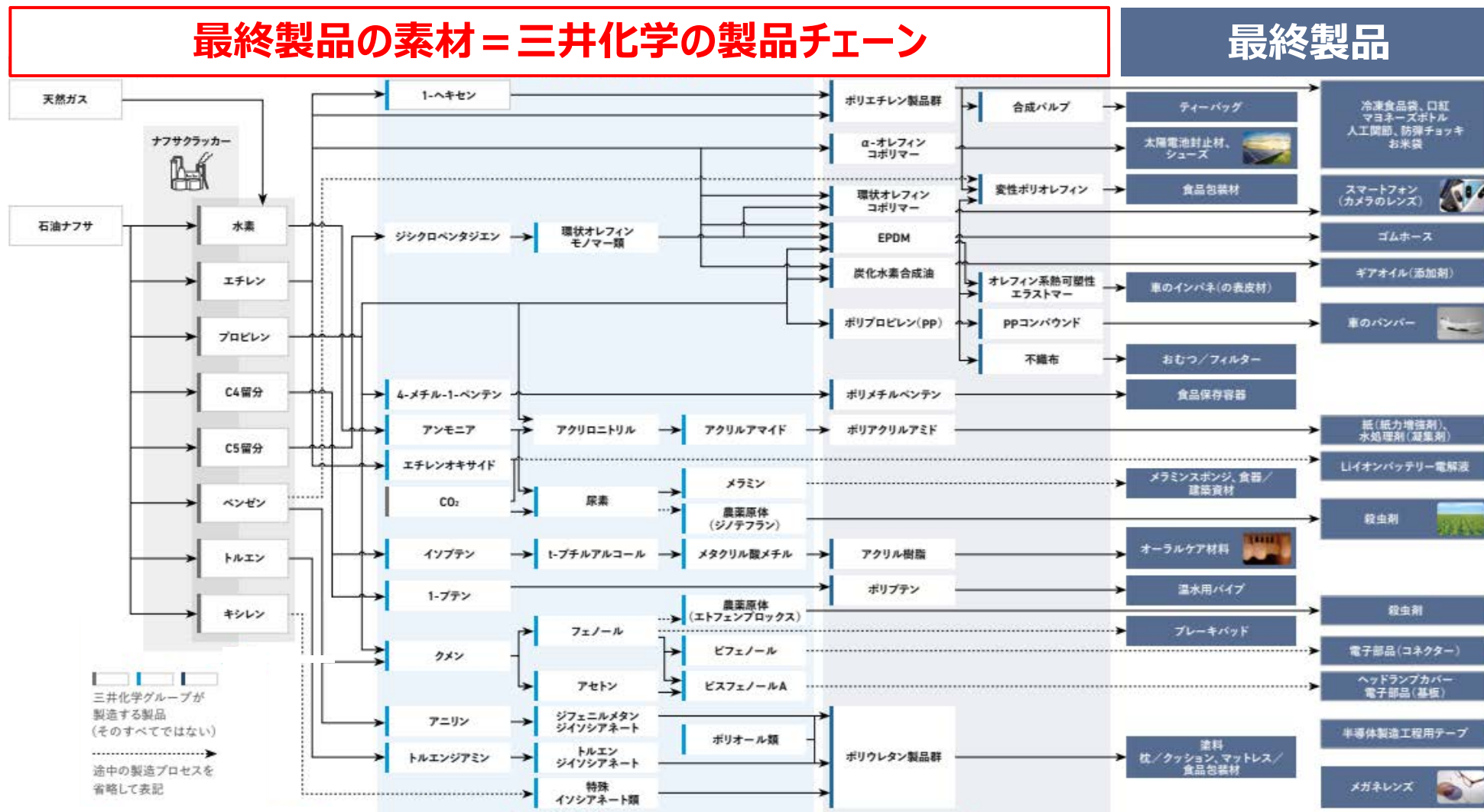
社会課題解決の歴史

戦後の食糧難に貢献

日本の近代化に貢献

グリーンケミカル実現に向けた挑戦

▶ 様々な最終製品に対して幅広く素材・サービスを提供



本図は原料から最終製品までの一部フローを図式化したものです。

▶ 当社が素材・サービスを提供する最終製品は様々

ティーバッグ

口紅

人工関節

防弾チョッキ

食品包装材

オーラルケア材料



太陽電池



タフマー®
世界シェア
No.2

車のバンパー



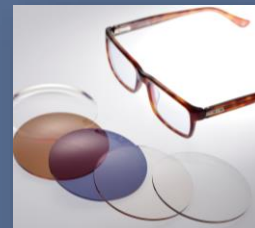
PPコンパウンド
世界シェア
No.2

マットレス

建築資材

メガネ
レンズ

MR™
世界シェア
No.1



靴のソール



スマホカメラレンズ

アペル®
世界シェア
No.1



おむつ



半導体製造工程用テープ



イクロステープ™
世界シェア
No.1

殺虫剤



トレボン®
国内シェア
No.1

スタークル®
国内シェア
No.2

ギアオイル

PORTOFOLIO

IV ベーシック&グリーン・マテリアルズ

石油化学製品

バイオ原料・誘導品 など



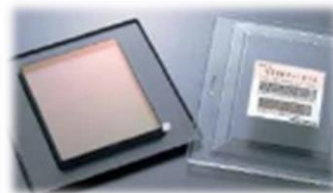
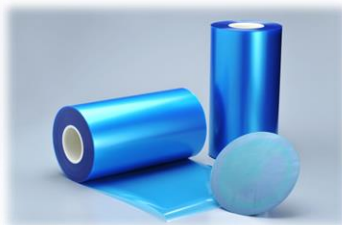
PORTOFOLIO

III ICTソリューション

スマホカメラレンズ材料

半導体・電子部品工程部材

高機能食品包装材料 など



PORTOFOLIO

I ライフ&ヘルスケア・ソリューション

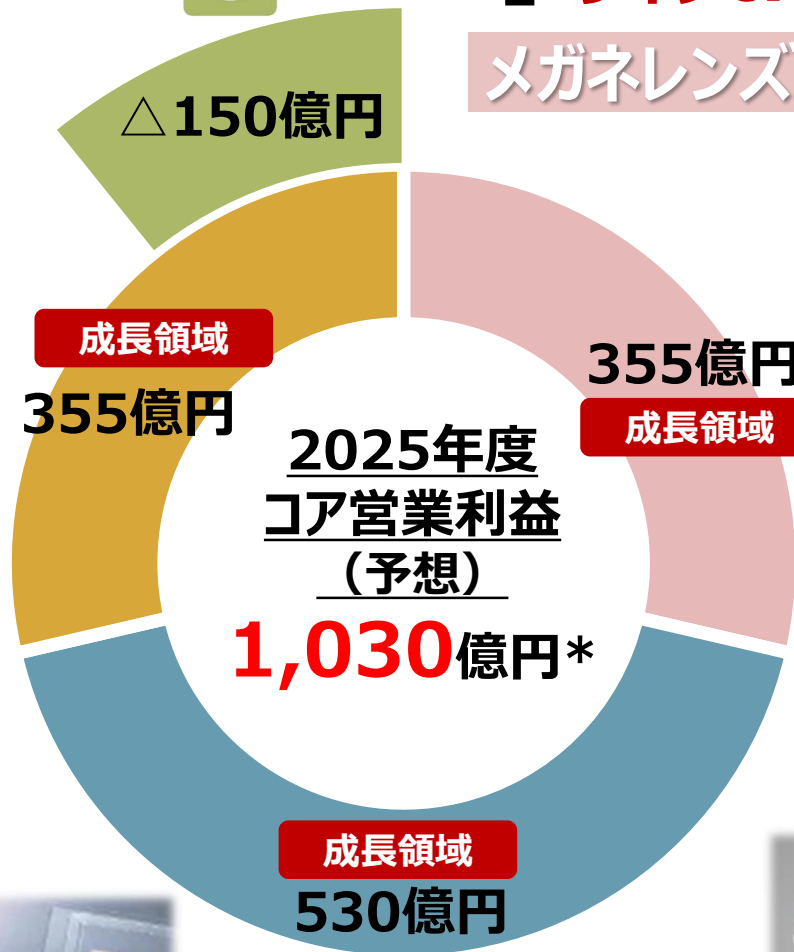
メガネレンズ材料 | 農業化学用品 | 歯科材料 など



PORTOFOLIO

II モビリティソリューション

自動車材料 | 太陽電池材料 など



*その他全社費用等▲60億円

▶ 「成長領域」 / 「B&GM」のそれぞれで目指す姿に向けた戦略を推進

成長領域



L&HC

積極投資・回収

メガネレンズ材料
 農業化学品
 タフマー®
 アドマー®
 イクロステープ™
 アベル®

オーガニック成長

メガネレンズ材料・コート材
 農業化学品
 自動車材他多用途
 モノマテリアル材
 半導体関連材
 光学関連材

新事業・M&A・提携

既存周辺
 メディカル領域
 半導体・実装領域
 ソリューション

高成長・高収益の
 グローバルスペシャリティカンパニーへ

成長加速に資するM&Aを含めた積極的な**資源投下**、**グローバル展開**
 収益性・資本効率性に課題のある事業の**再構築**、**ポートフォリオ変革**



B&GM

再構築加速

PH TDI
 PTA/PET PE/PP

ダウンフロー強化

高機能PP 高機能MDI 触媒

脱炭素

アンモニア燃焼

バイオマス

バイオマスナフサ

リサイクル

ケミカルリサイクル

CCU

カーボンニュートラルセンター

グリーンケミカル推進室

地域・他社連携の推進加速

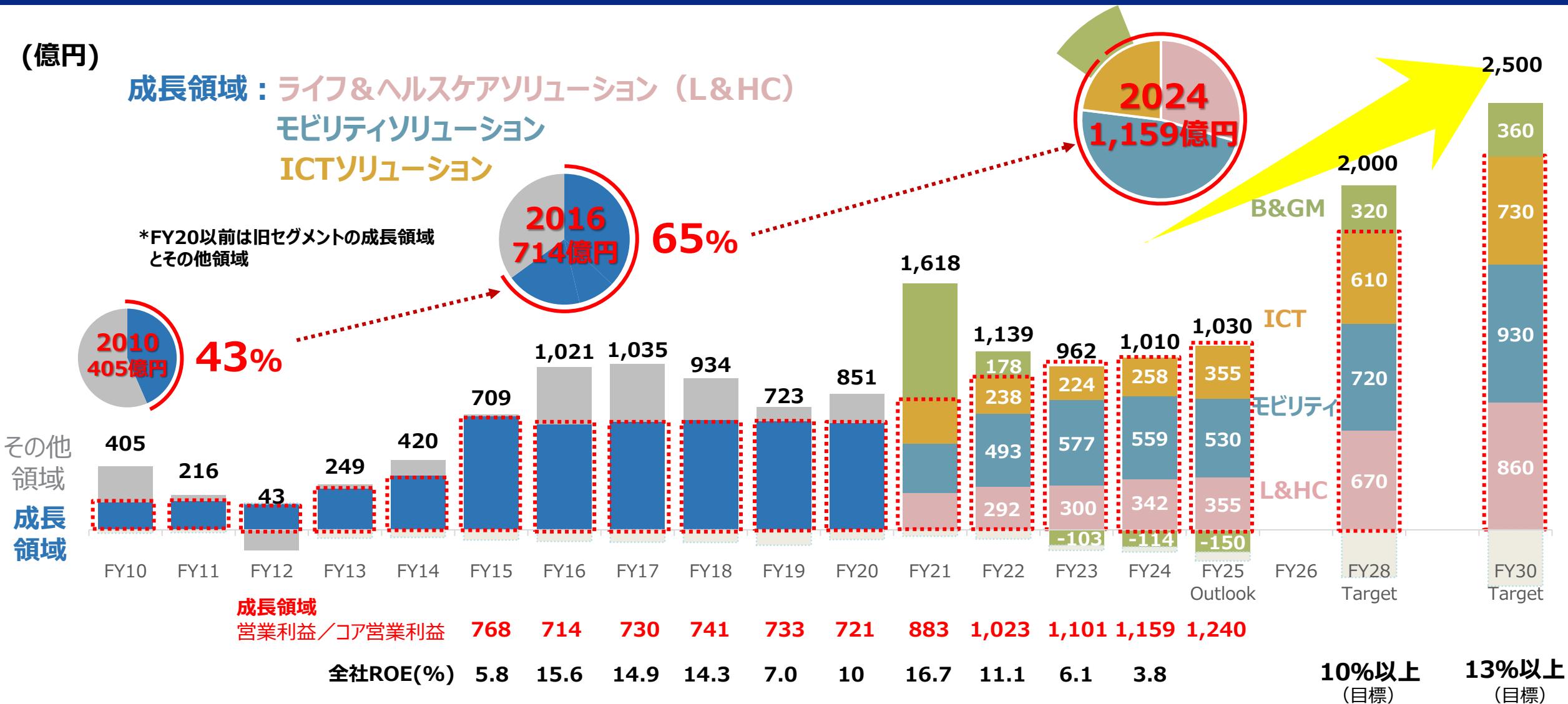
日本の産業を支える強靱な
 ベーシック&グリーンマテリアル
 カンパニーへ
 (2027年近傍には分社化を検討)

▶ 事業ポートフォリオ変革を進め「成長領域」は着実に成長

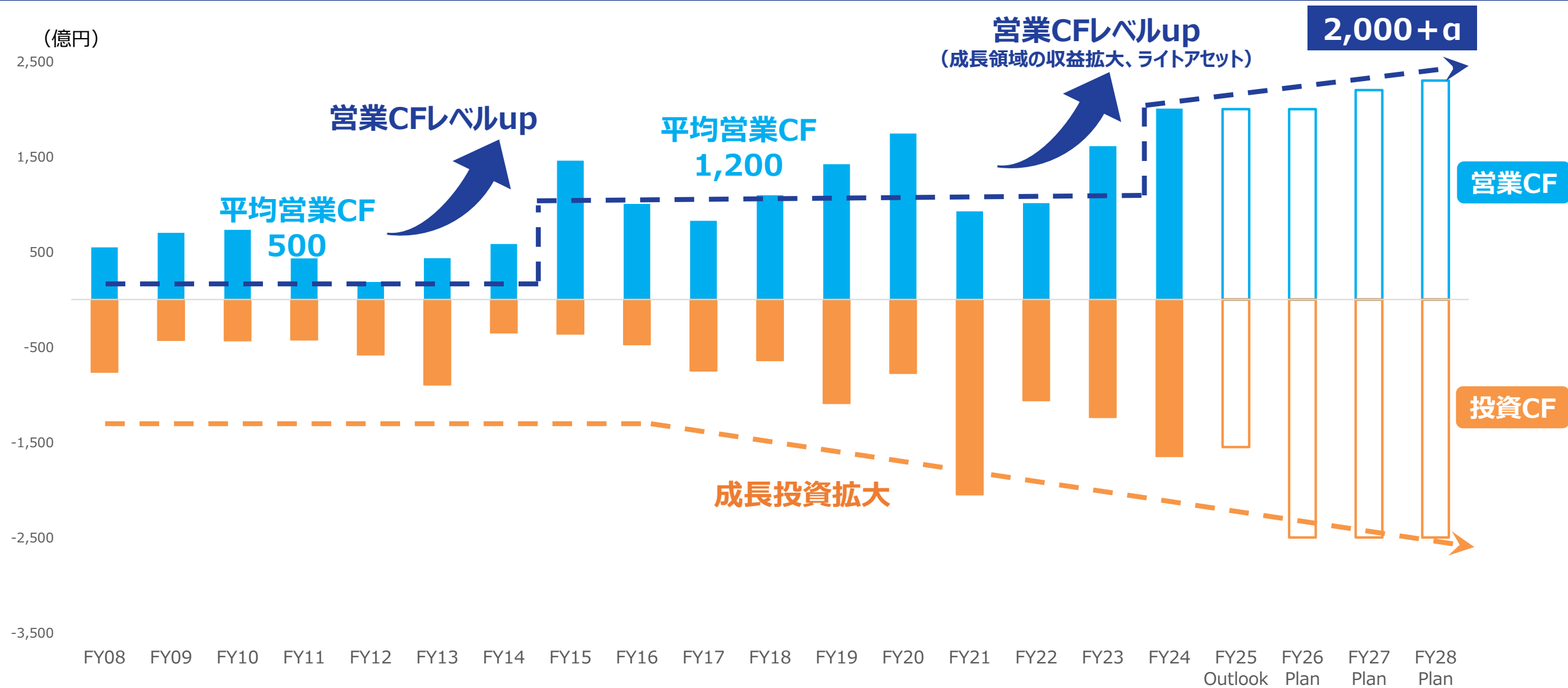
(億円)

成長領域：ライフ&ヘルスケアソリューション (L&HC)
モビリティソリューション
ICTソリューション

*FY20以前は旧セグメントの成長領域
とその他領域



▶ 収益拡大等を背景に稼ぐ力が向上し、積極的な成長投資や還元強化の余力を創出

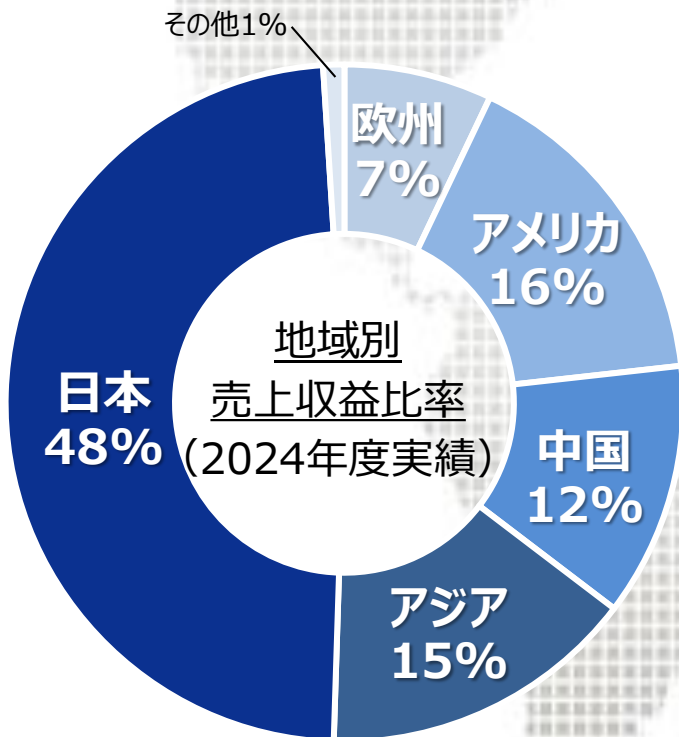


▶ グローバルスペシャリティケミカルカンパニーを目指して、積極的に海外展開を進める

海外売上収益比率

20年前
(2001年度)
25%

→ 52%



グローバル展開

20年前
14か国

→ 31か国

従業員数

20年前
12,228人

→ 17,320人

連結対象会社数

156社

うち海外
106社 (66%)



2. 株主還元

▶ 安定かつ継続的な配当と、機動的かつ柔軟な自己株式取得により、株主還元の充実を図る

株主還元方針

資本効率の向上と安定的かつ継続的な配当の実現

- ✓ 総還元性向**40%以上**
- ✓ DOE***3.0%以上**を目指す
(**4.0%を視野に還元強化を検討**)
- ✓ 機動的かつ柔軟な自己株式取得

*DOE：自己資本配当率 = 年間配当総額 / 自己資本

● 株式分割(2026年1月1日)

▶ 1株を2株に分割し投資家層の更なる拡大を図る。

● 2025年度配当予想

中間

期末

年間

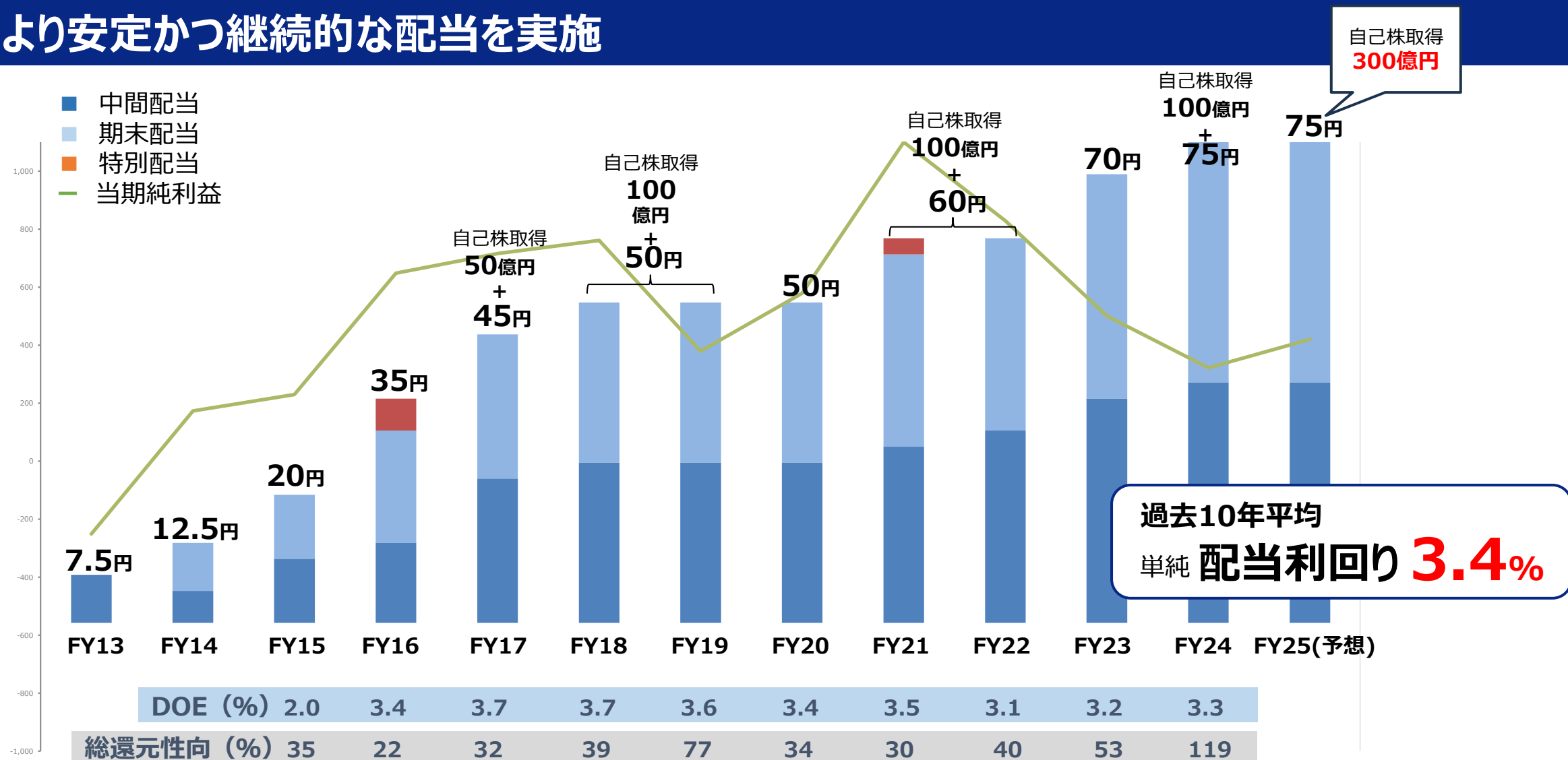
37.5_{円/株} + **37.5**_{円/株} = **75**_{円/株}

(上記株式分割前：75円/株)

● 自己株式取得 **300億円**

2026年2月～7月で実施予定

▶ 過去より安定かつ継続的な配当を実施



*配当額は2026年1月 株式分割を反映した値



3. 三井化学の事業

1



健康長寿
社会

2



食糧問題

3



電気
自動車

次世代モビリティ

4



デジタル化

5



持続可能
な社会

1. 健康長寿社会

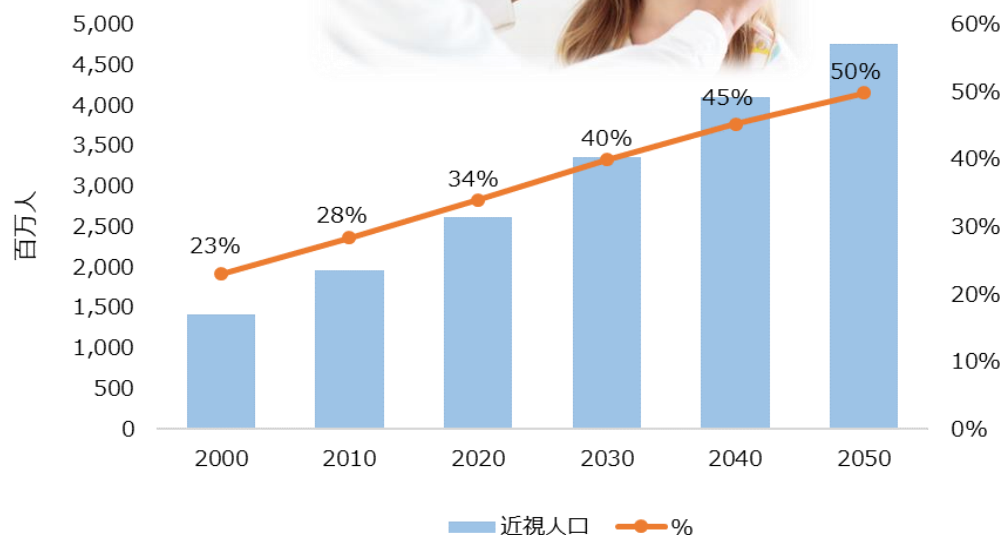
世界で最も選ばれている
メガネレンズ材料

メガネをより軽く、強く、見やすく。



2050年 近視人口は世界の50%近くに 高齢化、眼の健康意識の向上、より快適なメガネニーズなどに応える高付加価値領域に注力

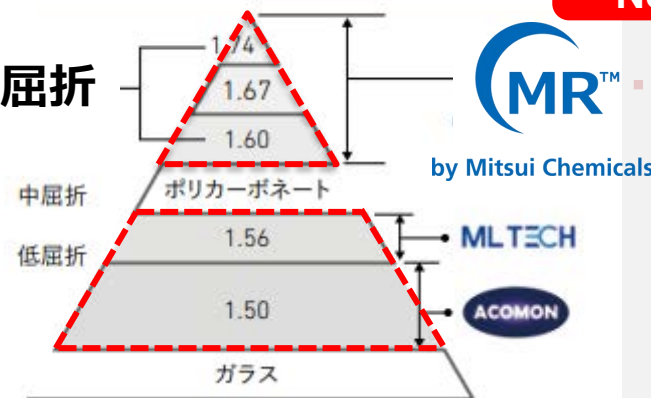
グローバル近視人口



American Academy of Ophthalmology, 2016年

メガネレンズ材料の分類

高屈折



* 赤枠：三井化学グループが取り扱う領域

メガネレンズ材料
市場全体
成長率 **3%**

高屈折市場
成長率 **6~7%**

高付加価値領域

三井化学の世界No.1シェア高屈折レンズ材料MR™が選ばれる理由とは



by Mitsui Chemicals

世界で選ばれる理由

度数が高くても
薄くて軽い

さまざまなデザインに
高い加工性

クリアな視界

割れにくく、安全



高屈折市場成長率

6~7%

.....▶ メガネそのものの需要増に加え、他素材からの置き換えが進む

他素材（ポリカーボネート）が主流の米国市場にて

コストコ社によるMR™の標準採用



21年3月～

COSTCO
WHOLESALE

他素材（アクリル）が主流の中国市場にて

中高級小売り向け拡販戦略推進





2. 食糧問題

農業化学品

**農作物の
安定生産、食料増産に貢献**



- ▶ 独自の原体を創出・加工する研究開発力を強みに高品質の農業化学品を展開
- ▶ 複数の海外拠点の活用、海外パートナー企業への出資により世界で存在感のある事業体へ

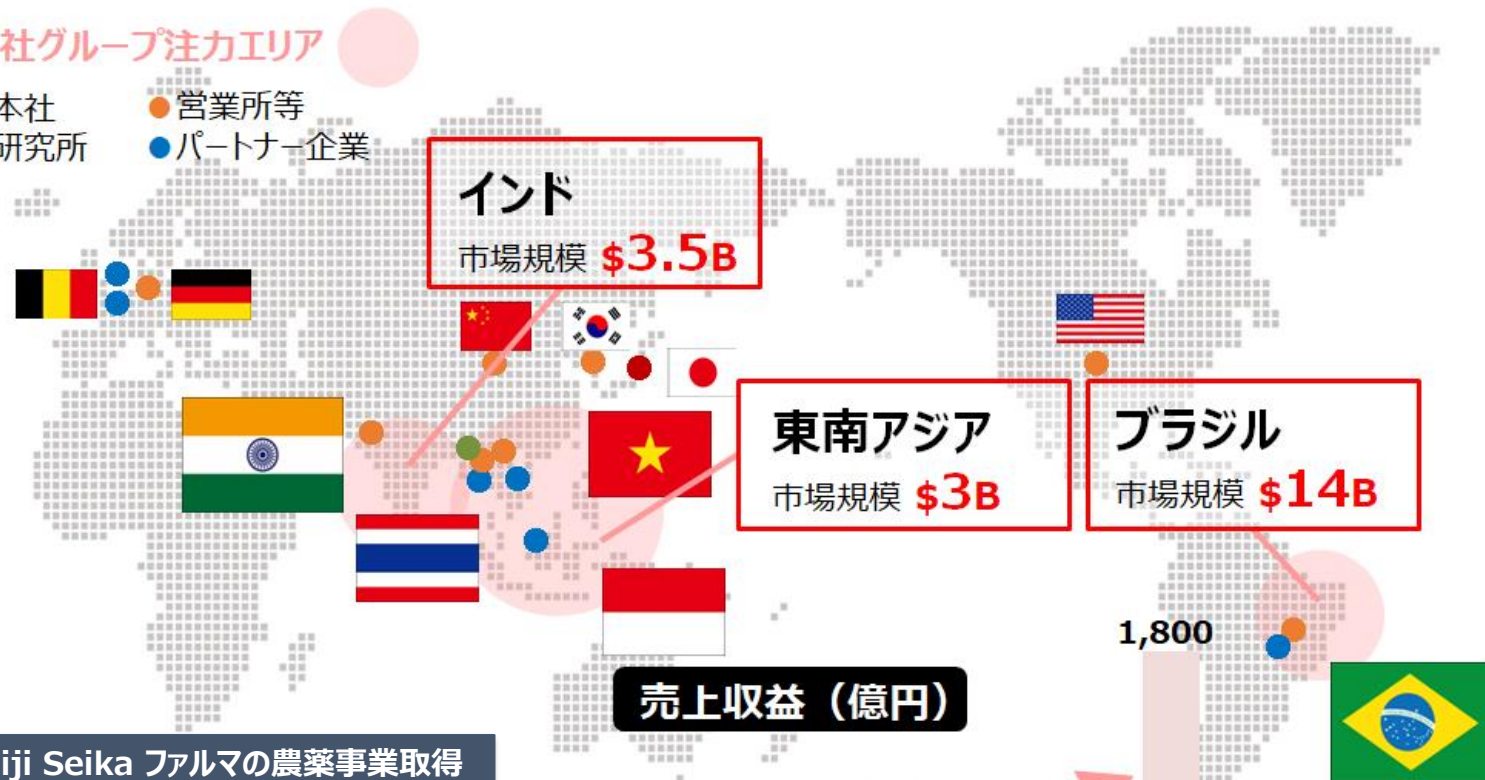
農業用・家庭園芸用農薬に加え、
ペット用駆虫薬、蚊防除剤用途など
幅広い製品を国内外に展開



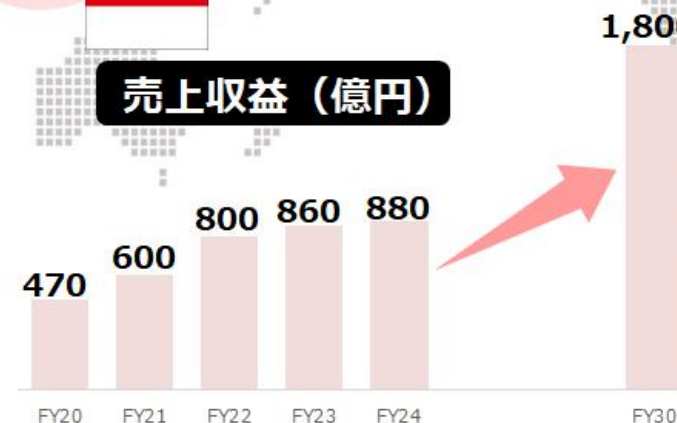
化学農薬の安全性・環境負荷低減
を追求

当社グループ注カエリア

- 本社
- 営業所等
- 研究所
- パートナー企業



売上収益 (億円)



Meiji Seika ファルマの農薬事業取得



環境に配慮した天然物由来農薬を
製品ポートフォリオに追加



3. 電気自動車 次世代モビリティ

多様な自動車材料

次世代モビリティの
自動車軽量化ニーズに応える



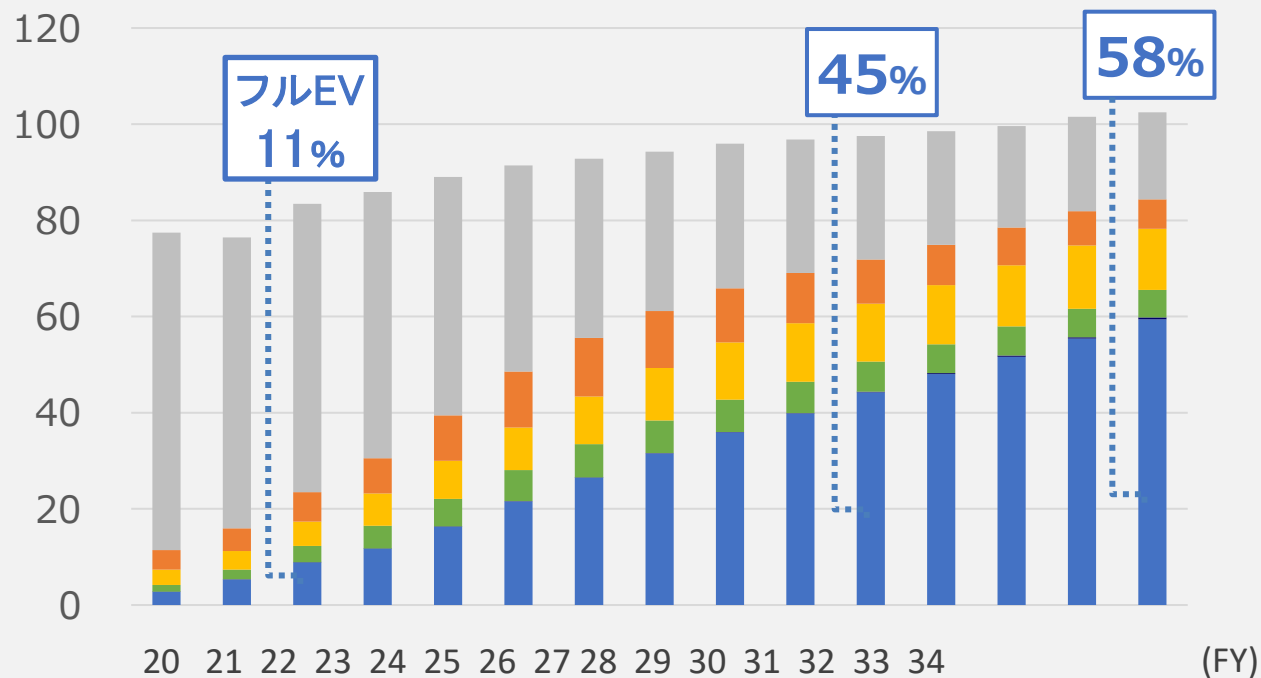
電気自動車（EV）をはじめ次世代モビリティの普及により、軽量化ニーズが高まる

▶▶▶ 金属→樹脂への材料転換（当社製品使用量の増加）

世界自動車生産台数

(百万台)

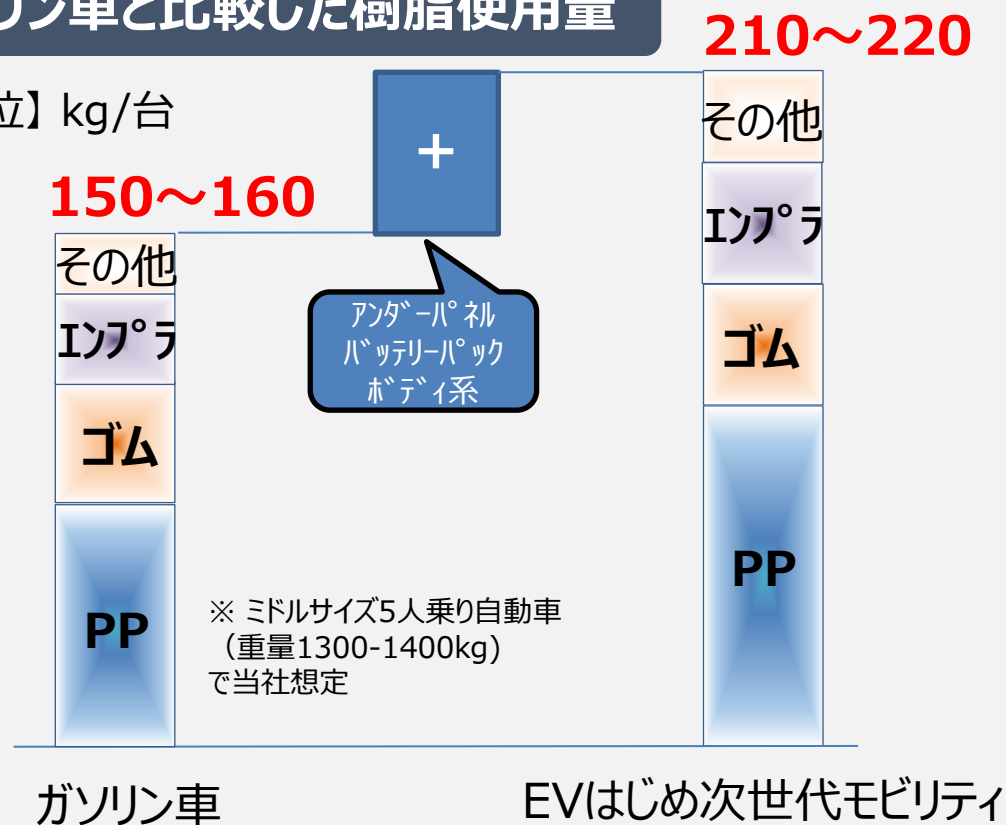
※外部機関参考による当社推定値



■ ICE (ガソリン/ディーゼル) ■ Hybrid-Mild ■ Hybrid-Full
 ■ PHEV ■ Fuel Cell ■ フルEV (電気のみ)

ガソリン車と比較した樹脂使用量

【単位】 kg/台



当社製品使用量：
40%増の可能性



▶ 幅広い製品ラインナップで、EVはじめ自動車の軽量化・質感向上など様々なニーズにグローバルで応える

●外装

軽量化・質感向上・空力特性

PPコンパウンド

世界No.2

タフマー®

世界No.2
アジアNo.1

●内装

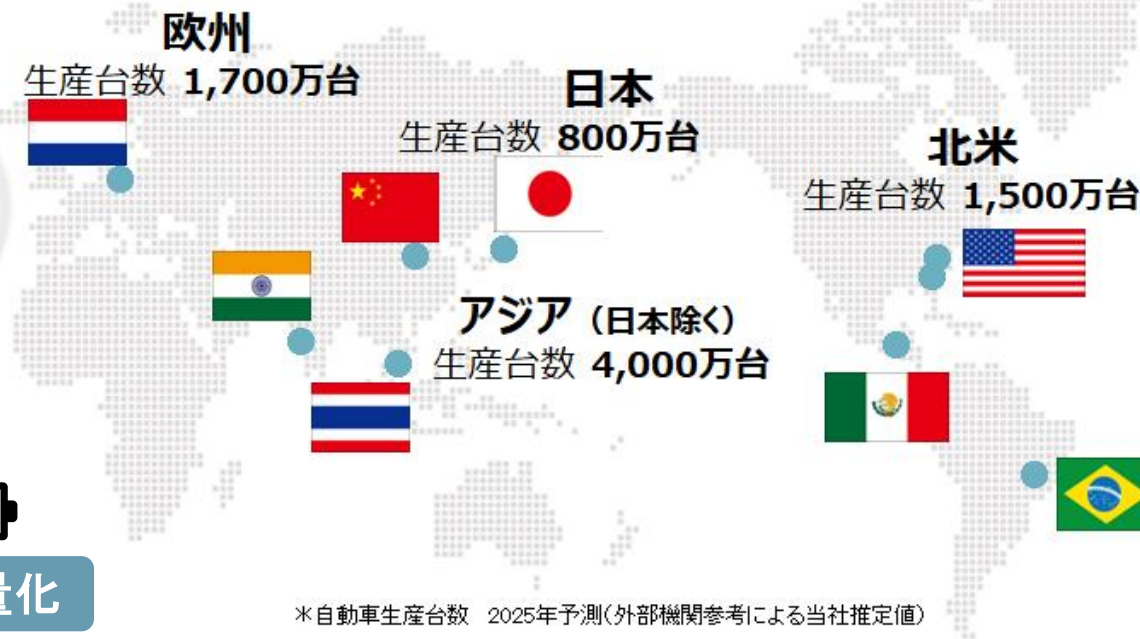
軽量化・質感向上・低臭気・静音

PPコンパウンド タフマー®
ミラストマー®

世界No.3
アジアNo.2



PPコンパウンドのグローバル展開
世界主要地域に9つの生産拠点、7つの研究拠点



●フランク(フロントランク) EV

PPコンパウンド

●電装・駆動システム EV

高速充電・絶縁性向上

アーレン® オーラム®
三井EPT®

●冷却システム EV

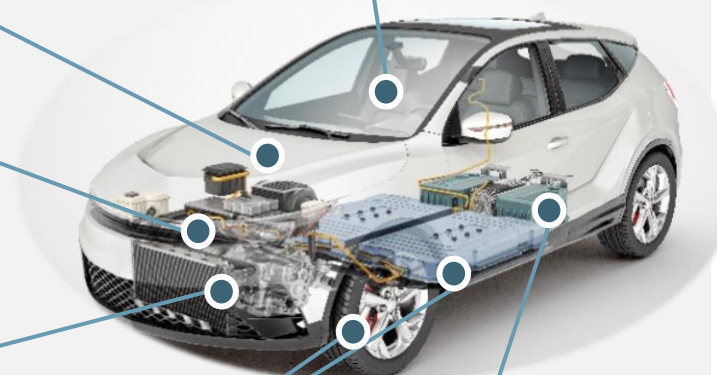
長期信頼性

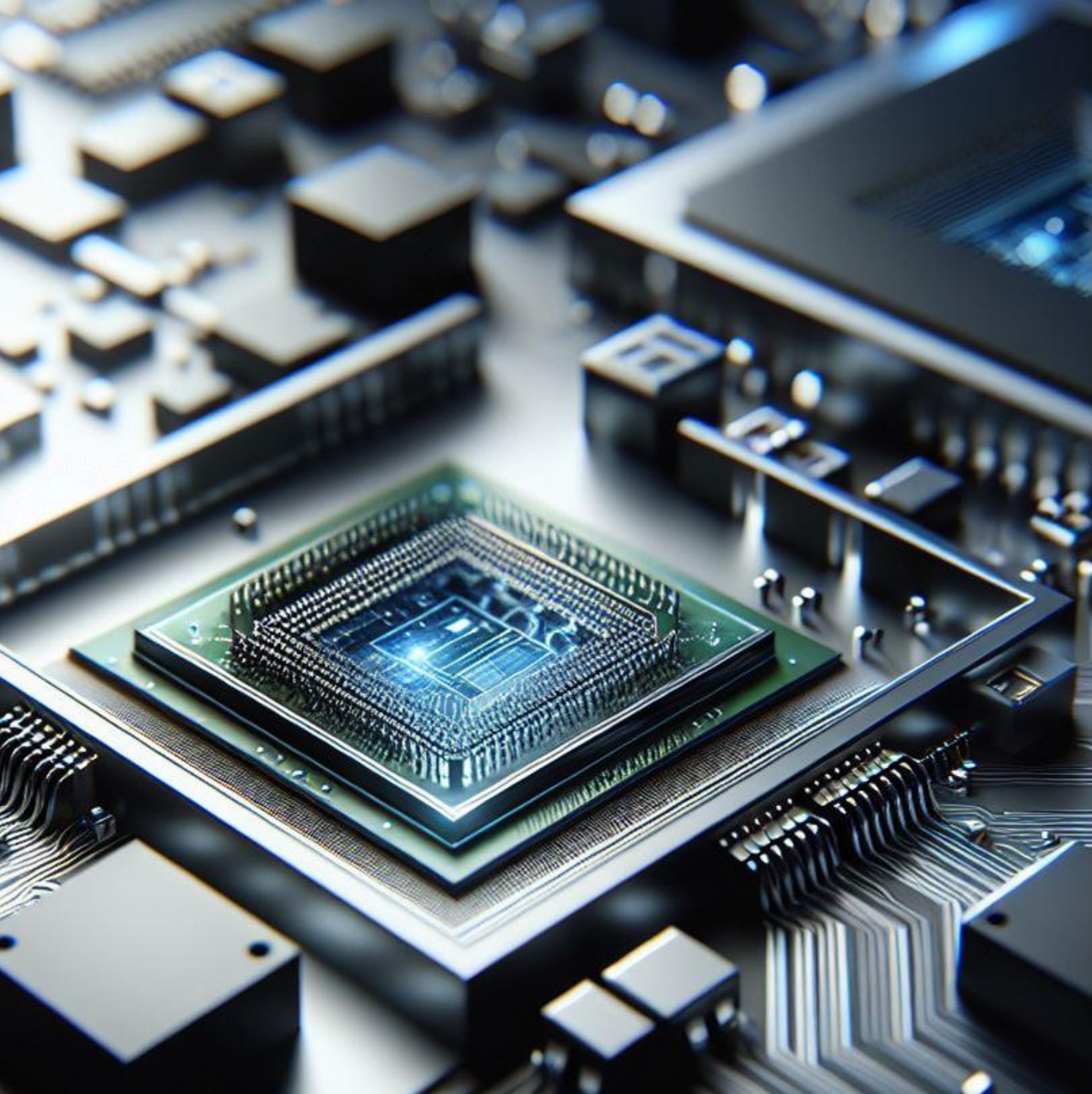
アドマー® 三井EPT®

●バッテリー周辺 EV

大容量化・安全性・軽量化

PPコンパウンド アドマー®
モストロン®
ポリマール®マツト(SMC)等





4. デジタル化

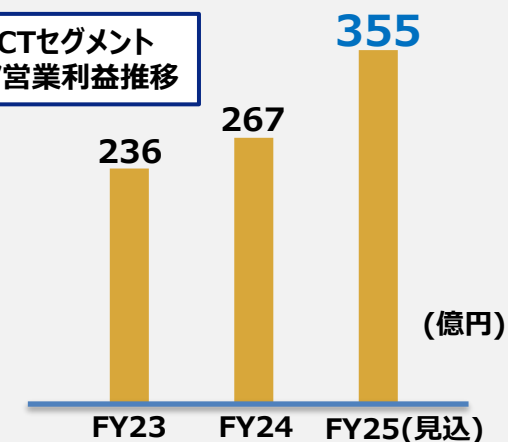
半導体関連製品
スマホカメラレンズ材料

デジタル化を支える
3つの世界No.1シェア製品



- ✓ AI普及による半導体高性能化ニーズの高まり
- ▶ デジタルデバイス(PC/スマホ)
 - ▶ データセンター

ICTセグメント
コア営業利益推移

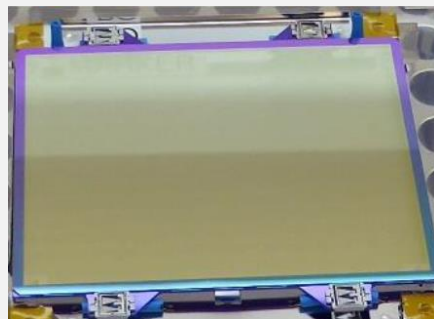


半導体の高機能化への対応・生産性の向上が不可欠

世界シェアNo.1

フォトマスク用防塵カバー
ペリクル

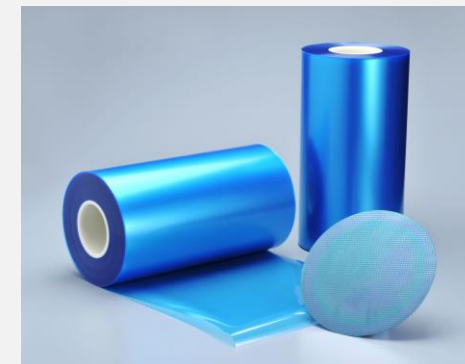
世界トップ[°]の供給力
世界初、唯一の
EUVペリクルを量産



世界シェアNo.1

半導体製造工程用テープ
イクロステープTM

日本に加え、台湾にも
生産拠点を保有
(24年能力増強@台湾)





スマホカメラレンズ材料 アペル®

世界シェアNo.1

スマホ



多用途展開を加速

VR/AR



HUD*1



車載カメラ



*1 ヘッドアップディスプレイ（車の運転中にドライバーの目線の上に情報を映し出す装置）

ARグラス向け光学樹脂ウエハ ディフラ™ を開発

AR



3インチ

6インチ

8インチ

8インチサイズは**世界初***

*当社調べ

ARグラス映像の

広視野角

高鮮明性

に寄与

大手テクノロジー企業での採用獲得

▶▶ ARグラスでの標準搭載化を目指す



5. 持続可能な社会

石炭化学、石油化学
そしてグリーンケミカルへ

▶ 日本初、バイオマスナフサを原料にバイオマスプラスチックを製造 / 廃プラスチックのリサイクルにも積極的に取り組む

従来原料



石油由来
ナフサ



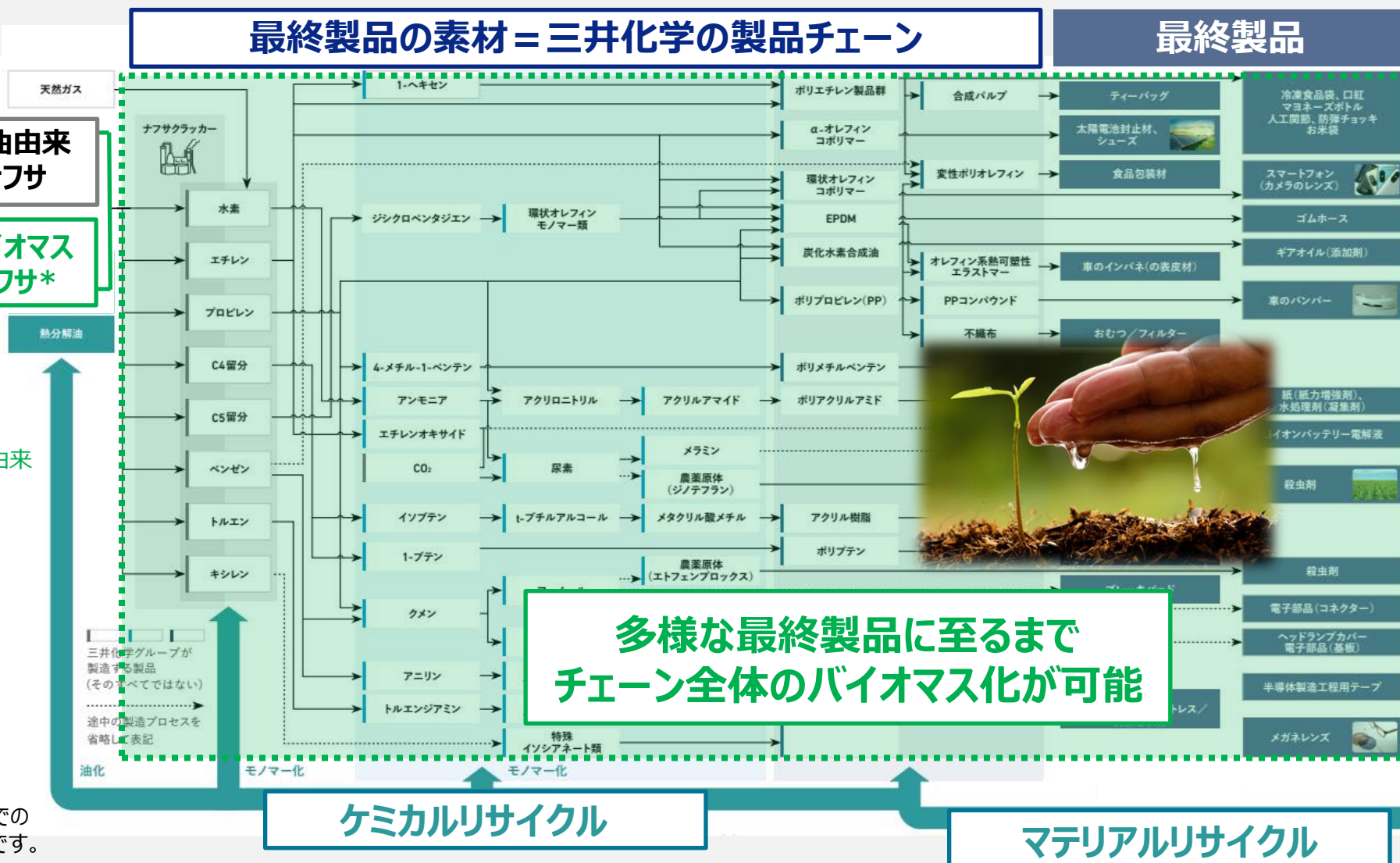
バイオマス
ナフサ*

新規投入

*植物等生物由来

最終製品の素材 = 三井化学の製品チェーン

最終製品



本図は原料から最終製品までの一部フローを図式化したものです。

▶ 今後も事業戦略の着実な推進による成長と株主還元の強化を図り企業価値の向上に努める



	2019	2020	2021	2022	2023	2024	26/2/26
分割考慮後 期末株価 (円)	1,025.5	1,747.5	1,545.0	1,705.0	2,165.5	1,671.0	2,321.5
分割考慮後 1株当たり配当 (円)		50	60	60	70	75	75
1株当たり配当累計 (円)		50	110	170	240	315	390
TSR		175%	161%	183%	235%	194%	264%

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

Challenge Diversity One Team

ご清聴ありがとうございました

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。